

# INTERVIEW

外国人材を受け入れている農家へのインタビュー



令和6年1月

No.9

## 有限会社 田中丸ガーデン

### 経営概要

所在地：佐賀県小城市

従業員：役員4名、職員25名（正社員及びパート含む）、外国人材6名（技能実習生4名、特定技能2名）

※令和6年1月現在

栽培品目：花苗、野菜苗の生産・販売。年間を通し花と野菜で約200種類の苗を生産。1.8ha（うち施設面積1.0ha）



昭和51年花卉の育苗を開始。その後、野菜の育苗を開始するなど経営規模を拡大。特に地域の自然環境に合った土づくりに注力し、ポット用の土には地元の佐賀水道局より日々排出される汚泥を買い取り土づくりに利用することで、地域資源のリサイクルに貢献。

世界の最新品種や流行の品種などもいち早く取り寄せ、この地域の自然環境に合った土づくりと育成に全力を注ぎながら、お客様に喜んでいただける苗づくりを第一とし取組みを進める。

### 外国人材の受け入れについて

➤ 受け入れのきっかけを教えてください。

平成27年、事業拡大に伴う労働力の確保のため、地元の管理団体に相談しながら、中国人の技能実習生2名の受け入れを開始し、その後、2年間で別の国の技能実習生を受け入れてきました。

当社では、同じ国から継続して受け入れるのではなく、違う国から2名ずつ受け入れるようにしています。現在受け入れている外国人は、ミャンマー、モンゴル、ネパールの女性6名です。

違う国から受け入れることのメリットは、自国以外の外国人との会話の際は、日本語で話すしかなく（共通語は日本語）、日本語を覚えるのが早くなることです。半年もすると日本語が問題なく伝わるようになります。また、同国を2名ずつ受け入れることで日頃の生活や仕事の時など孤独感を軽減することができます。

➤ 外国人材の業務内容や受け入れの効果はどうか。



挿し芽作業

主に花、野菜の種まきから苗の移植、接ぎ木作業に従事してもらってます。外国人はどんな仕事でも丁寧に素早くまた、辛抱強く仕事してくれます。

若い外国人（20～30代）が働いていて、会社全体が明るく、活気に満ち、作業効率も上がりました。

年配の従業員は外国人を可愛がっており、外国人もよく慣れ親しみ職場の雰囲気もよくなりました。

## 受け入れ農家としての取組(生活環境・コミュニケーション)

### ➤ 外国人材の生活環境などを教えてください。

近所に3LDKの1軒家を宿舎として購入し、1室に同国人2名で住んでいます。家賃は1万円/月で電気代等は使用した分を徴収しています。

食事は、国別の食事メニューに違いがあることから、同国ごとに料理し食べているようです。宿舎にはキッチンを2か所用意しています。他国の料理も食べてみたようですが、あまり馴染めなかったようです。

Wi-Fi環境の完備は必須で、これにより、自国の家族、友人等と話すことができることで、寂しさを紛らわすことができているようです。

食材は、近くにスーパー等があることから、自ら買いに行ってます。自転車もそれぞれに与えています。



プラグ苗をポットに移植

### ➤ 外国人の教育などの取組を教えてください。

毎日の朝礼の際、行動指針や人間関係など一日一話の読み物が掲載されている朝礼用の冊子を職員全員で輪読しています。その際外国人には、1日ごとに担当を決め、リーダーとして最初の一段落を音読するとともに当日の話題についての思いや感想を日本語で話してもらってます。

担当を決めておくことで事前にそこを読み込み、勉強し、当日に臨むことになることから、日本語の学習が進み、上達することになります。

自ら日本語を音読し感想を話すこの取り組みは、日本語らしい話し方を含め、日本語能力の向上に非常に役立っています。



朝礼での輪読の様子

外国人には、近所の方へのあいさつや地域の清掃作業などに参加し積極的にコミュニケーションを図るよう話しています。また、当社で作った花苗を地域の花壇に植えるなど、地域が華やかな雰囲気になるよう取組んでいます。

これにより、地域の方からは、外国人と接することを楽しみにしていると言ってもらえるなど、地域に受け入れられ可愛がっていただいているようです。

## 今後の事業展開

### ➤ 今後の展開や取組について教えてください。

現在の経営規模を継続していきたいと考えています。販売先は主にホームセンターですが、売り場の6割以上を当社で占めることができるよう取組を進めていきたいと思っています。

仕事柄繁忙期の仕事量の差が著しく、外国人の受入開始の時期や年間を通じて仕事が継続できるよう工夫していきたいと考えています。



田中丸土男 代表取締役